



【日 時】 2006.08.27
【沢 名】 29号線波賀町日ノ原の万ヶ谷
【ル ー ト】 万ヶ谷～日ノ原村
【メンバー】 石野・大塚・福迫・大本
【装 備】 沢登り道具一式
【天 候】 曇り/晴れ

昨年は足指骨折のために夏はどこも行けずにはりばりに専念していた。

8月に入って雨らしい雨は降っていないが、今年は山間部だけでなく市街地でも局地的に記録的なゲリラ雨が雷雨とともに襲ってきている、やはりこれも地球温暖化が原因だろうか・・・。

まずは足慣らしとあって、国道29号線沿いの波賀町日ノ原の万ヶ谷へ足を踏み入れた。2年ぶりの沢登りに緊張の顔は隠せない。沢靴が信用出来ずに恐くて四つん這いになりがちである。これでは替えて重心が定まらず足を滑らす原因になるのだが、二足歩行がどうもおぼつかない。

少し遡行していくとすぐにカンを取り戻し周りの景色も余裕を持って見えだしてきた。楽しく遡行出来だしたところに第一の難関の滝が待っている。

今年は水量が多く、いつもはスムーズに登れる滝も怒濤の勢いで流れ落ちている、落差15m。

早速に登攀隊長の石野氏に左側の水量の少ないルートを攻めてもらう。いつもなら余裕の出だしであるのだが、やはり久しぶりなので足が震えたそうである。どんな所でもフリーでのトップは怖いものである。なんとか登り切って、早々にザイルを出してもらう事にする。



二番手は私が本流のやや左を強烈なシャワーを浴びせられながら楽しく？登らせてもらう、そのあとに福迫、大本と続く。ザイルなしではとても楽しく登れる代物ではない。

その上のお釜の滝は水量多くてとても登れたものではないので大本に高巻きをしてもらう、ここでも慎重にスタカットピレーである。

それからは小滝の連続でほぼ本流を直登気味に遡行して楽しませてもらうが、私は途中の2mの小滝で手がかりを滑らせて、まるでスローモーションのように頭からドボンッ！。ヘルメットのおかげで何事もなくやれやれであった。



それにしても周りの景色は雑木やサワグルミが太陽の光を求めて、枝一杯に葉をつけている。今まで曇りがちの天候だったが枝葉の間から木漏れ日が差し始め、大自然に包まれて俗世間の小さな出来事が沢の轟音に洗い流されていくようだ。



大自然に抱かれながら遡行していくとフィナーレの大滝25mが現れる。水量が多くてとても登れた代物ではないが、しばしそのド迫力に大自然のマイナスイオンを体一杯に浴びて堪能させてもらう。この大滝の右側を高巻きしている途中で石野氏が「マムシやっ！」の大声に一同驚きを隠せない(>_<)。30cmほどの短さであるがしっかりとトグロを巻いて首を持ち上げていつでも攻撃態勢で小さな目でニラミを効かせている、温度に感知するのでこれも高巻く(>_<)。





国道 29 号線から入溪

高巻きが終わると、そろそろシャワークライムも終わりなので、滝の音をBGMに木漏れ日浴びて昼食タイムと腰を下ろす。

ここからはゴーク歩きとなって水路のトンネルをくぐって日ノ原の村へ出るコースとなるが、2年前の台風23号でそのトンネルも入り口をふさがれてしまい通ることが出来ない。そのトンネルも高巻きして無事に山道へ出る。あとは村を抜けて29号線を500mほど下ればパーキングにたどり着く。



埋まったトンネル



落差 25 m の大滝



猛暑の夏はやはりシャワークライミングがよく似合う